歴史災害研究部会

部会代表者：文学部・教授 山崎 有恒

部会副代表者：文学部・教授 河角 龍典

研究メンバー：大窪 健之、片平 博文、高橋 学、中谷 友樹、矢野 桂司、吉越 昭久

【研究計画の概要】

過去の減災の知恵を抽出し、その知恵を現代の文化遺産防災計画・事業に活かす。具体的には、歴史災害のデータベース化およびGISを援用した地図化などを通じた史資料のアーカイブ化、これを活用した歴史災害の復原による過去の減災の知恵の抽出、および過去の減災の知恵を精査し、現代の最新技術の援用により、現代に活かすことができる知恵への修正と有効性の検証を行う。

(1) 歴史災害を生き延びてきた減災の知恵に関するデータベース構築【○大窪、吉越、中谷、矢野】

国内外の歴史災害を生き延びてきた都市や建築に内在する減災の知恵に関する史資料、文献などを収集し、フォーマットシートに整理してデータベースを構築する。今年度は、国内事例の整理を中心に調査を継続し、英訳を進めることで、国際イコモスの災害危機管理分野の専門家委員会であるICORPのメンバーと共同して、海外の事例のデータベース構築を開始する。

(2) 歴史災害の復原と減災の知恵の抽出に関する研究【○吉越、片平、河角、高橋、山崎】

京都を中心とする歴史災害の復原研究を実施するとともに、年に3回ほど学内外の専門家を招き、成果の検討会を開催する。今年度も継続して、歴史災害の復原研究を中心に実施する。

(3) 歴史災害の表現方法とGISによる地図化に関する研究【○矢野、吉越、片平、河角、高橋、中谷、山崎】

歴史災害の効果的な表現方法と地図化によって、情報の発信と公開を積極的に進める。当面は、京都の歴史災害と東北地方の津波災害に焦点を絞って実施する。

【研究成果】

I. 研究成果の概要

本年度は、過去の減災の知恵を抽出し、その知恵を現代の文化遺産防災計画・事業に活かすための研究を中心に実施した。

具体的には、歴史災害のデータベース化およびGISを利用した地図化などを通じた史資料のアーカイブ化、これを活用した歴史災害の復原による過去の減災の知恵の抽出、および過去の減災の知恵を精査し、現代の最新技術の援用により、現代に活かすことができる知恵への修正と有効性の検証などに取り組んだ。主な研究課題は、以下のようなものである。

(1) 歴史災害を生き延びてきた減災の知恵に関するデータベース構築【○大窪、吉越、中谷、矢野】

国内外の歴史災害を生き延びてきた都市や建築に内在する減災の知恵に関する史資料、文献などを収集し、フォーマットシートに整理してデータベースを構築した。今年度は、国内事例の整理を中心に調査を行った。

(2) 歴史災害の復原と減災の知恵の抽出に関する研究【○吉越、片平、河角、高橋、山崎】

京都を中心とする歴史災害の復原研究を実施するとともに、年に3回ほど学内外の専門家を招き、成果の検討会を開催した。今年度は、火災・水災・地震災害を中心に、歴史災害の復原研究を実施した。

(3) 歴史災害の表現方法とGISによる地図化に関する研究【○矢野、吉越、片平、河角、高橋、中谷、山崎】

歴史災害の効果的な表現方法と地図化によって、情報の発信と公開を積極的に進めた。今年度は、京都の歴史災害と東北地方の津波災害に焦点を絞って実施した。

Ⅱ. 研究成果の詳細

研究成果の概要で記した(1)～(3)の課題順に成果をあげたい。

(1) 国内外の歴史災害を生き延びてきた都市や建築に内在する減災の知恵に関する史資料、文献などを収集し、フォーマットシートに整理してデータベースを構築した。また2014年度立命館大学土曜講座において、12月のテーマ「歴史都市と災害」にあわせて本部会の成果を社会発信した。12月6日には、立命館大学衣笠総合研究機構の客員研究員である北原糸子氏による「災害復興に賭ける人・知恵・技術の系譜」、12月13日には本グループリーダー工学部教授大窪健之氏による「東日本大震災に学ぶ「駆け込み寺」という知恵」が行われた（第3グループのところで述べる「歴史都市防災シンポジウム仙台」でも報告された）。

(2) 2015年3月9日に、歴史都市防災研究所 第4回公開セミナー「京都歴史災害研究会」として、横浜開港資料館調査研究員吉田律人氏を招いての研究会を実施予定である。関東大震災における軍隊の出動とその背景などについての講演を元に、参加者による質疑応答では、現代の自然災害における自衛隊の出動問題などについて意見交換を行いたい。また『京都日出新聞』を中心として、明治～昭和戦前期の歴史災害に関する網羅的なデータベースを構築しつつあるが、2014年3月末に『明治後期京都歴史災害データベース 1887 - 1911』（立命館大学歴史都市防災研究所発行）を刊行、これで1887年から1935年までのデータベースが完成した（今年度は引き続き明治初期分について構築作業を行った）。またおもに京都を主要な研究対象として、鴨川をはじめとする京都盆地諸河川流域の更新世末期から完新世にかけての災害考古学、とりわけ河川の水害史の構築を試みた。

(3) 2014年10月25日衣笠キャンパスにて「GIS Day in 関西 2014 - 歴史都市のまちづくり -」を開催した。この企画は2007年の地理空間情報活用推進基本法の施行を受け、「歴史都市のまちづくり」をテーマに講演会とGIS Workshopをおこなったものである。講演会は①京都市都市計画局まち再生・創造推進室 密集市街地・細街路対策課長 文山達昭氏が、歴史都市京都における（まち再生）の取組、②本部会河角龍典教授が、GISでみる平安京のまちづくり、③京都府立総合資料館、庶務課新館担当副主査の福島幸宏氏が、「京都市明細図」を事例とした地図のデジタル化による資料活用のひろがりについて、それぞれ話された。また、本グループではロヒト・ジグヤス教授、板谷直子准教授を中心に東北大震災で津波災害に見舞われた南三陸町志津川地区を対象に調査を実施し、文化財の被害調査と記憶の地図化を試みてきたが、2015年3月16日に開催される第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム歴史都市防災シンポジウム仙台において、①第1セッション「文化遺産と防災」では大窪健之教授（理工学

部)、中谷友樹教授(文学部)が、②第2セッション「文化遺産と復興」ではロヒト・ジグヤス教授(衣笠総合研究機構)、板谷直子准教授(衣笠総合研究機構)がそれぞれ研究の成果を報告する予定である。

Ⅲ. 今後の研究計画・展開

本部会で実施してきた前述の3つの課題は、歴史災害をとらえていく上で、非常に大きな意義を有する必須の研究課題であるといえる。今後ともこの3つの研究課題を深め、活性化していきたい。特に(2)の京都歴史災害研究会は、今年度は諸般の事情により一回のみの開催にとどまったため、次年度はより回数を多くし、部会内の研究成果などを積極的に発信していきたいと考える。また学内若手の研究者にその研究成果を発表する場を積極的に設けていきたいと考える。

Ⅳ. その他特記事項

東日本大震災にかかわる東北地方・関東地方における文化財被災地図は、歴史都市防災研究所のホームページでも容易に見ることができる。